

# 大学院特別講義のご案内

- ◆ 日時：2015年10月6日（火） 17:15～18:45
- ◆ 場所：D棟3階 示説室
- ◆ 講師：水口 俊介 教授 （東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野）
- ◆ 演題：超高齢社会における歯科としての備え ―東京医科歯科大学高齢者歯科学分野の戦略―
- ◆ 要旨：平成26年4月の人口推計によると65歳以上の高齢者の人口は3189万8000人となり、初めて総人口の25%を超えた。また、国立社会保障・人口問題研究所（[www.ipss.go.jp](http://www.ipss.go.jp)）では、この高齢者人口割合は、平成42年は32%、平成72年には39.9%まで上昇を続けると推計されている。この『超高齢社会』において我々歯科医師はどのように立ち回ればよいのだろうか。

高齢者の歯科治療に際しては多くの問題が内在しており、特に有病高齢者に対し安全な歯科治療を行うための方策と、医科との連携が必須となる。また、摂食・嚥下障害をもつ要介護高齢者も増加しており、この機能評価を適切に行える歯科医師が今後必要とされるであろう。また、高齢者は義歯使用率も高く、特に長期間の義歯使用は高度の顎堤吸収をうみ、また唾液分泌量低下等によりいわゆる難症例が多くなっていることも近年の特徴の一つである。

2013年度に東京医科歯科大学は、高齢者歯科学分野と全部床義歯補綴学分野を再統合した。いうまでもなく、今後増加するであろう高齢者歯科関係の様々な要求に、スピードとパワーを持って対応するためである。

本講演では、東京医科歯科大学高齢者歯科学分野の活動、すなわち高齢者の歯科治療における全身管理、義歯ケア、高齢社会へ対応した義歯用材料、咀嚼能力評価、全部床義歯治療に貢献する要因、CAD/CAM全部床義歯、IOD、摂食嚥下機能評価について紹介させていただき皆様のご批判を仰ぎたい。

（問い合わせ先：有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野 内線：2954）

※「口の難病」セミナーも兼ねます